

氏名	渡 辺 徹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Roles of Fc $\gamma$ RIIB in Nasal Eosinophilia and IgE Production in Murine Allergic Rhinitis (マウス鼻アレルギーモデルにおける鼻粘膜好酸球浸潤とIgE産生 へのFc $\gamma$ RIIBの関与)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 谷本 光音 教授 岩月 啓氏

#### 学位論文内容の要旨

IgGの受容体であるFc $\gamma$ レセプター(Fc $\gamma$ R)のうちFc $\gamma$ RIIBはITIMを介して免疫応答の抑制化に関与することが知られている。我々はFc $\gamma$ RIIBを介する鼻アレルギー感作の制御について、野生型(+/+)およびFc $\gamma$ RIIBノックアウト(-/-)マウスを用いて検討した。

BALB/cおよびC57BL/6の2系統のマウスに、マンソン住血吸虫卵抗原(SEA)をアジュバントを用いず点鼻感作し、SEA特異的抗体産生、鼻粘膜内好酸球浸潤、鼻粘膜リンパ球のサイトカイン産生などを比較検討した。

その結果BALB/c-/-マウスは+/+マウスに比較して、SEA特異的IgE産生の有意な低下とIgG1産生の増加を示した。鼻粘膜内好酸球浸潤は-/-マウスにおいて有意に亢進した。鼻粘膜リンパ球のIL-4産生は-/-マウスにおいて低下していた。C57BL/6マウスでも同様の傾向を示した。

以上より、Fc $\gamma$ RIIBは好酸球浸潤、IgG1産生に関しては抑制的に働くものの、特異的IgE産生に関してはIL-4産生を介して促進的に働く可能性が示唆された。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、Fc $\gamma$ レセプターII B (Fc $\gamma$ RIIB) を介する鼻アレルギー感作の制御について、Fc $\gamma$ RIIB ノックアウトマウスを用いて検討したものである。その結果、Fc $\gamma$ RIIB は、好酸球浸潤、IgG1 産生に関しては抑制的に働くが、IgE 産生に関しては促進することを示した。この知見は、鼻アレルギーの病態解明に重要であり、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。